



2022年3月25日

各 位

Santen、日本の工場・研究所の購入電力すべてを 再生可能エネルギー由来に切り替え

参天製薬株式会社（本社：大阪市、以下 Santen）はこのほど、能登工場、滋賀プロダクトサプライセンターおよび奈良研究開発センターの国内2工場・研究所にて外部から購入するすべての電力を再生可能エネルギー由来に切り替えましたのでお知らせします。

Santen は、社会の持続的な発展に貢献することと、Santen の中長期的な企業価値向上を目的として ESG マテリアリティ（経営の重要課題）を設定しています。その一つとして「地球環境保全」を掲げており、地球環境保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識しています。当社は、社会的責務を果たし、持続的な成長を支える事業基盤を強固とするため、2050年の環境ビジョン「Santen Vision for the Earth 2050」と、その実現に向けた2030年環境目標を策定しています。「Santen Vision for the Earth 2050」で掲げているCO₂排出量削減目標については、「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ^{*1}」からの承認を取得し、地球環境の保全に取り組んでいます。今回の再生可能エネルギー由来の電力への切り替えにより、3拠点合わせ年間約1.2万トン^{*2}のCO₂排出量削減を見込んでおり、CO₂排出量削減目標のひとつを2年程度前倒して実現することとなります。

当社は、60を超える国と地域で事業を行っており、そのすべての国・地域において、脱炭素社会の実現に向けた、工場・施設のエネルギー源の転換、徹底した再利用、高効率使用等の技術革新などによりカーボンニュートラルを目指す「気候変動対策」に取り組んでいます。同時に、循環型社会の実現に向けて、プラスチック製から紙製・バイオマスプラスチック等の持続可能な新素材への転換などの「環境負荷低減」に取り組み、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

以上

^{*1} 環境情報の開示に関する国際 NGO である CDP、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、世界自然保護基金(WWF)、および世界資源研究所(WRI)によって設立された国際的な共同イニシアチブです。企業に対し、世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べて2°C未満に抑えるという国際的な長期目標に向けて、科学的根拠にもとづいた温室効果ガスの排出削減目標を設定することを推進しています

^{*2} 2020年の購入電力使用量にマーケット基準によるCO₂排出係数を乗じて算出

<関連資料>

- ・ Santen Vision for the Earth 2050 プレスリリース（2021年5月18日付）
<https://www.santen.co.jp/ja/news/20210708.pdf>

—本件に関するお問い合わせ先—

参天製薬株式会社 コーポレート・コミュニケーショングループ

communication@santen.com